

—— 表現で世界を変える ——

京都精華大学
KYOTO SEIKA UNIVERSITY

京都精華大学における 日本語教員養成課程の 新規立ち上げと養成機関登録

京都精華大学 国際文化学部
中岡 樹里

目次

1. 新規立ち上げ・登録申請の背景
2. 「登録日本語教員課程」概要と特色
3. 申請までの準備と流れ
4. 設置科目
5. 今後の課題

1. 新規立ち上げ・登録申請の背景

年度	京都精華大学 国際文化学部	登録日本語教員の制度
2022	カリキュラム改変 着手 →日本語教員養成課程の 新設を含む	(所管:文化庁)
2023		「日本語教育機関認定法」成立
2024	実践研修&養成機関申請	「日本語教育機関認定法」施行 (所管:文部科学省)
2025	新カリキュラム 始動	

3

2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

京都精華大学国際文化学部(26年度~人文学部)

-人文学科(歴史/文学/社会専攻)

-グローバルスタディーズ学科(26年度~国際教養学科)

-国際文化専攻

-国際日本学専攻

4

2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

京都精華大学国際文化学部(26年度～人文学部)

-人文学科(歴史/文学/社会専攻)

-グローバルスタディーズ学科(26年度～国際教養学科)

-国際文化専攻 → 英語教職課程

-国際日本学専攻 → 登録日本語教員課程

(専攻の学生のみ履修可)

5

2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

国際文化学部 ディプロマ・ポリシー

「国際文化学部の教育研究目的は、ヒト、モノ、情報が国境を超えて複雑に絡み合う現代社会の多様な課題の解決に貢献し、より良い共生社会の実現に寄与できる人間の育成です。アフリカ・アジアや日本・京都を中心にグローバル／ローカル双方のアプローチから社会課題を理解し、地球規模の視野を持ち、体験的な学修を通して個別のテーマ研究を深めます。」

<https://www.kyoto-seika.ac.jp/edu/culture/policy.html>

6

2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

養成する教員像

1. 日本語を教えるために必要な言語・文化、日本語の教授についての知識、および教育実践を行うための技能を有し、それを実践で用いることができる
2. グローバルとローカルの接点にある日本語教員として、共生社会を実現するための行動を取ることができる
3. 自身の教育実践をふり返り、自律的に学び続けることができる

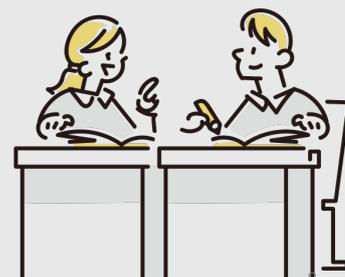
7

2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

定員:

養成 180名
(学科定員45名×4学年)

実践研修 25名



2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

定員:

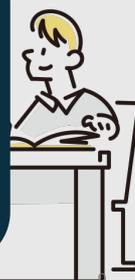
養成 180名
(学科定員45名×4学年)

実

学科定員45名/学年

↓
2専攻のうち国際日本学専攻を選択した学生

↓
登録日本語教員課程に登録する学生



2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

実践研修 教壇実習先

1) 学内

学部留学生対象の日本語クラス

2) 学外(数名)

養成課程を持つ他大学と、実習生を相互に受け入れ合う



2. 「登録日本語教員課程」概要と特色

その他特色:

- ・留学生が多い(2024年度:学部生の28.5%)
- ・芸術系を含む5学部
(国際文化・メディア表現・芸術・デザイン・マンガ)
- ・国際日本学専攻 教員の専門
(美学/伝統文化/現代文化/日本語・日本語教育)

11

3. 申請までの準備と流れ

2023年2~3月ごろ

「登録日本語教員課程」検討開始



- ・科目ラインナップ案作成
- ・必須の教育内容(50項目)対応表作成

12

3. 申請までの準備と流れ

2024年2~3月ごろ

科目再検討



50項目との照合、調整

仮シラバス、履修モデルの作成

13

3. 申請までの準備と流れ

2024年4月~

申請書類の作成開始



・体制：教員2名（学部教務主任、課程主任者）

職員5名

・週1回のミーティング

・申請書類の作成

14

3. 申請までの準備と流れ



- ・2024年7月 : 事前相談
- ・2024年8月頭 : 本申請締切
- ・2024年9月 : 面接審査
- ・2024年11月末 : 登録

15

4. 設置科目(1)

- ・言語と社会
- ・日本語教育学特講1
- ・日本語教授法1
- ・日本語教育実習
- ・言語習得論
- ・日本語教育学特講2
- ・日本語教授法2

→ 全て必修

日本語教員(専任3名+特任1名)で担当¹⁶

4. 設置科目(2)

(必修)

- ・日本語学
- ・国際日本学概論
- ・言語学
- ・国際日本学研究

(選択必修)

- ・国際日本学特講Ⅰ
- ・国際文化特講Ⅳ
- ・心理言語学
- ・国際文化特講Ⅰ
- ・グローバル共生社会論
- ・社会言語学

17

5. 今後の課題

- ・課程の特色をどう打ち出していくか
- ・大学外(地域など)とのコラボレーションや連携の可能性の模索



18